

紅葉の時期が来れば

仲川 浩世

毎年、この時期から紅葉を楽しもうとする人々で全国が行楽地は賑わう。イチョウ並木など黄色に染まった遊歩道は見事なものである。コロナ禍で、ここしばらく人出も減少傾向にあったが、非常事態宣言の解除に伴って、街全体に活気が戻り、生き返ったような気持ちにさせてくれる。個人的なことであるが、紅葉には特別な思い出がある。まだ英語教員になる以前の修士課程時代、留学先のカナダにて日本では目にすることができないような深紅のメープル・リーフや様々な樹々に感動したことが、記憶の片隅に残っている。勉強の厳しさや、周りの人達の温かさと同様に、留学時代の良き思い出のひとつである。

帰国後、非常勤、特任教員と回り道をしたが、2020 年 4 月から、女学院の専任教員としてお世話になっている。着任する以前は博士号取得のために広島へ通学していたが、そこでも見事なもみじ（紅葉）を鑑賞したものであった。昼間は大阪での勤務、夜間と週末に大学院の指導を受けていたため、いつも時間に追われ留学時代ほどキャンパス・ライフを楽しむことはできなかった。それでも、少しの時間にもみじの美しさを目に焼き付けて帰ろうと、ベンチに腰掛けていたことを思い出す。

紅葉のしくみを簡単に検索してみると、「最低気温が 8 度を下回る日が続くこと」ということがわかった。秋になると葉の中の「アントシアニン」という成分が増加し、日光を浴びることで合成を促進させ、このことから葉が紅く染まるようになる。最低気温が 8 度となれば、関西では 11 月半ばであろうか。すぐに冬になり、マイナスを下回るために、実質上近隣で紅葉を楽しむことは困難である。満員電車で揺られ、都市圏へと通勤し、テレワークの増加で在宅勤務に従事していれば、紅葉を意識することもないであろう。しかし、IT 機器の利便性に頼ってしまい、24 時間世界中で繋がる現代社会であるからこそ、自然との調和、共生の価値を見直し、四季を味わうことが可能な地に生を受けたことに感謝をしたい。そして、時には PC やスマホを側へ置き、外の空気を吸って余暇の時間を楽しみたいと願う。

参考資料

徳野大地（2020）「「いよいよ紅葉シーズン!葉を紅く染める最高の気象条件は?キーワードは「最低気温 8 度」」

https://tenki.jp/suppl/d_tokuno/2020/10/15/30023.html

(なかがわ ひろよ 教授/教員養成センター)